令和三年度　事業概況報告書

［一般財団法人］　石 島 一 徳 社

令和三年度事業概況報告書

１　定款　第４条第１項

コロナ感染が最も危惧された令和三年度でした。徹底した予防策を講じながら、全事業の運営に全力で取り組みました。クラスター発生が頻繁に報じられたいわき市でしたが、幸い、当社では感染者は一名も出ませんでした。

小学生、中学生、高校生を対象とした事業は、最少人数による維持でしたが、目標である学力の向上は顕著でした。心身の健やかな成長も見ることができました。

社会人対象の２部門には、趣味の高揚と余暇の有効活用が出来る機会を提供できました。

事業「公認平成人学校」は、昭和３６年（１９６１年）の認可開講以来６０年になりました。いわき市を始め、政財界や学問分野などで修了生が活躍しています。改めて、成人学校が果たしてきた役割を再確認した年度でした。

学力の格差が問題になりましたが、楽しい学校生活を送れるよう、助言者として学習支援をしてきました。感謝の言葉から、次年度への大きな勇気を得ることが出来た令和三年度でした。そして、コロナ感染収束の見えない今、緊張続く国際紛争の絶えない今日、いかなる事態にも対処できる態勢の確立を再認識した一年間でした。

２　定款　第４条第１項２，３，４号

２号　福島県公認　平成人学校

今年度の入学者はありませんでした。

年間を通して、問い合わせは数件ありました。中学３年生、中学校進路指導者、高校生と様々でした。さらに、県外からは、転勤の事情による進路相談もありました。いずれも、「もしもの時は成人学校」という意識が存在していることは確かでした。入学希望者は受け入れるが、浪人はさせたくないという本意は、問い合わせ者に伝えてきました。「成人学校は来年もあるのか」という保護者からの声もありました。以上のように、進路・学習の相談センターとして利用されました。

また、例年になく、修了生が、年代を問わず多く訪れました。

３号　小中学生を対象にした学習補充教室

(1)　いわき土日教室

年間の授業編成、進度カリキュラムに沿って、週末の２日間、国語・理科・社会・数学・英語五教科の勉強室として、全学年に利用されました。

教科書と授業ノートを参考に、類似問題を解くことによって弱点箇所を克服していました。毎週、解説付き「一日１０分間プリント」を渡し、家庭学習にも力を入れました。講師は適宜、保護者生徒と連絡を取り、状況の把握に努めました。

一年生は、中学校の進度の速さに戸惑いながらも、この教室で、勉強方法を身につけ、９月以降は、怖れることなく学校の授業に臨むことが出来たと喜んでいました。

中学３年生は、授業の復習予習に加え、高校入試の過去問に触れるなど、入試に備えた勉強まで頑張っていました。在籍者２名は、デザイナーと獣医師を目指し、志望高校への切符を手にしました。

在籍者数：　一年生１名　二年生２名　三年生２名

(2)　中学英数教室

在籍者は、各学年１名ずつでした。毎時間個別指導になり、周囲に緊張することなく、落ち着いた雰囲気の中で頑張る姿がありました。部活動がない時には、数時間前に入室し、授業内容や宿題などについて積極的に講師の助言を受けていました。

今年度の受講生徒は、五段階評定が１か２で、藁をも掴む気持ちで、入会しました。一学期の５・６月の中間テストを目標に、指導を受けていました。「５０点とれた！」と喜ぶ顔が、講師を一層奮起させていました。

学校生活を活き活きと過ごしているという保護者の声は、教室の維持に励みとなりました。

３年生１名は、市内の第一志望高校に合格し、教師になるという夢に向かって修了していきました。

◎　今年も、当教室と「いわき土日教室」の主催により、夏期・冬期・春期の集中講座を開催しました。
　受講者数は、中１・２が各２名、中３が３名でした。

※　各教室と集中講座に在籍した中学３年生の高校合格名
　磐城桜が丘高校　平工業高校　湯本高校

４号　社会人対象

（1）囲碁講座

令和三年度は、日本国中、将棋と囲碁の人気が絶えなかったと言えるほどにマスコミを賑わしていました。ここでも連日、熱戦が続いていました。会員十名、盤上の睨み合い。白が一太刀、かわす黒。攻防やいかに。沸きあがる歓声。戦い済んで紳士協定。いつも、和やかな笑い声が絶えませんでした。

月例の石島杯争奪戦は、一喜一憂勝利を目指し、熱戦が繰り広げられ、戦いを通して、親睦は深まっていました。

外部団体との交流戦や公開講座は、コロナ感染予防のため控えました。幸い、感染者の発生はなく、徹底防止策が功を奏したと思われます。

窮屈な状況の中、癒しの場として、市民に貢献、維持運営できました。

（2）アート・フラワー教室（造り花教室）

この２年間、主婦の家庭における荷は重くなり、心身共に疲労感が蓄積し、休める機会が減る一方でした。週一回、この教室には、日常の多忙から離れ、趣味に没頭し、純粋に楽しむ明るい姿が満ちていました。互いに鑑賞批評し合い、構想から完成まで、創造の世界に浸っていました。親睦は深まり、心の疲れを癒し、笑みの絶えない芸術教室でした。作品は、自宅のケースや飾り棚に置かれ、一部屋を展示室にしている会員もいました。

会員五名は、友人を同伴し、造る楽しさを体験する機会をしばしば設けていました。

コロナ感染については、会員同士健康状態を連絡し合い、全員出席を前提に、防止に努めていました。

３　定款　第４条第１項第５号

（1）　代ゼミサテライン予備校

学習に最適の環境を提供し、第一志望合格の報告を受け、支援校としての役割を果たすことが出来ました。高校卒業生は、一年間の辛苦を乗り越え、親への感謝と喜びを伝える姿が連日見られました。頑張ることの大切さを学んだと、精神的にも大きく成長して修了していきました。

現役生からは、成績向上の報告があり、３年生からは、大学進学の喜びの声が届きました。１，２年生は、復習、試験対策と、閉館時間午後９時まで過ごし、

放課後の有効活用に懸命でした。

夏期、冬期，春期は、現役生から高い評価があり、保護者からは自宅通学により心配もなく、歓迎されました。

年間を通し、進路学習から、健康、学校生活、友人関係まで相談を受けるなど、勉強以外のことにも貢献できました。２０００以上の講座数に加え、そうした“特別講座”が用意され、予備校の役割を超えた運営が出来ました。

受講生の中には、サテラインの修了生であるいわき出身の社会学者、開沼博氏を目標にトップ大学を目指す生徒もいました。

受講者数：　６名　　受講講座数：　４０

大学合格名：明治大　法政大　日本大　ほか

(2)　小学生英語教室

日常生活を英語で表現できることを目標にしました。「おはよう」から「おやすみ」まで、普段交わしている会話を、場面を設定し、英語を体験する授業が行なわれました。

受講者は１名でしたが、遊びの時間という感覚で過ごしていました。家庭や学校で目にするほとんどの物や事柄を、英語で言えるまで上達し、一年間を終えました。

(3)　ステップワールド英語いわき第一教室

小学生５名、中学生１名の受講者がありました。

学習内容と進度、行事は、年間予定に沿って遂行できました。思うように対話が出来ない日常生活の下、心のケアが問題になったコロナ禍２年目でした。ここでは、毎時間、「おしゃべりタイム」を設け、心を開くことから始まりました。いつの間にか、英語になっているという講師の指導力が発揮された教室でした。

小学生の授業は、保護者の参観を呼びかけ、子どもの英語習得への協力を求めるなど、親と子による授業が定期的に開催されました。

中学生は、教科書内容を日常会話に応用し、使える英語習得を目指しました。外国人講師を招聘した公開レッスンでは、質問応答に臆することなく楽しく過ごしていました。また、地区の英語スピーチ大会に参加、検定試験の合格など、会員の活躍がありました。

受講者数は、小学生が５名、中学生が１名でした。

(4)　卓球教室、ミニバスケット場の無料開放

水を得た魚のように、元気溌剌とした姿が見られました。互いに接近を避け、暗黙のルールのもと、元気に動き回る光景に、この施設の目的が再確認することが出来ました。白球を打ち返す真剣な眼差し、ゴールできずに悔しがる顔。都市空間にオアシスを提供できるこの事業は、誇りさえ感じることが出来る一年でした。

夏休み、冬休みには、修了生が訪れ、後輩と過ごすこともありました。怪我、事故もなく、管理維持が出来ました。